

令和5年3月14日

粹な計らい

昨日の休み時間、授業から職員室に戻ってきたある先生が、9年生の先生に「あれ誰がしたん?」「あれ誰が考えたん?」と・・・

ある先生とは、いつも生徒のことを考えていて、何か生徒にあったり、何か校内が変わったりしている時に、当該学年の先生方にすぐ知らせてくれる方なんです。

だから、9年生の先生が、一瞬、そのある先生の言葉かけによって「え・・・9年生が何かあったん?何かしたん?」と・・・

9年生の先生が、「え、何かありましたか?」と聞き返す前に、ある先生は、「あれ、めちゃめちゃ良いね!」「考えた子すごいよね!」と・・・

9年生の先生の一瞬こわばった表情が、次の瞬間には笑顔に変わっていました。

その「あれ」とは・・・
これなんです!



9年生が卒業式後に、後輩に向けた想いを7・8年生の教室棟から見えるように中庭側の9年生の教室の窓に貼っていたのです。



9年生の子どもたちが考えたのか、先生たちが考えたのかはわかりませんが、本当に心がほっこり、表情が緩むサプライズです。これは河東中卒業生の伝統ではなく、第37代卒業生が起こした河東中初の試みだそうです。良き伝統の始まりの予感・・・!